

新報 伊方町

発行所 町
伊方町湊浦
愛媛県西条市伊方町湊浦
〒796-03 伊方局38-0211

編集 課
印刷 所
社 豊 八幡浜市松柏 22-0144

今月の紙面

二面……60年度当初予算
一般会計は33億円

三面……民話と伝説
35回自醸酒品評会

四面……町見中の広野さん
文部大臣表彰に
果樹振興資金受付け開始

町制施行30周年を祝う

昭和三十年三月三十一日に伊方村と町見村が合併して誕生した伊方町は今年で町制施行三十周年を迎えました。その記念式典が、三月三十一日に伊方町民会館で行われ、約五百人が新たな旅立ちを祝いました。

三月三十一日午前九時から伊方町民会館で行われた記念式典には、町内外から五百人が出席、福田町長の式辞、井上議長のおいさつ、特別功労者や自治功労者など多数のお祝いの言葉を受け、式典は無事終了しました。三十周年は一つの節目、さ



伊方町民会館で約500人が出席して行われた30周年記念式典

(功労者を表彰)

らに豊かで住みよい町づくりに八千七百町民が一丸となって取り組むたいものです。当日表彰された皆さんは次のとおりです。

特別功労者

林 満繁(湊浦) 山本長松(大浜) 川口満義(川永田) 高門嘉夫留(川永田) 小川文一郎(湊浦) 栗田龍彦(川

自治功労者

永田 邊定幸(小中浦) 岩井正(二見) 木戸五雄(河内) 井上里盛(畑) 脇田道(須賀) 村田和助(湊浦) 渡邊マサ(奥) 大池サナエ(古屋敷)

交通安全功労者

福田平喜知(川永田) 西田勝利(久保) 松下トエ(仁田之浜) 八幡浜交通安全協会伊方支部・同町見支部

消防功労者

松田文治郎(久保) 吉川治吉(川永田) 池田六郎(古屋敷) 山口壽男(龜浦) 中田文敏(龜浦) 宮本弘(龜浦) 鳥津教夫(鳥津) 岩井順久(二見) 吉本正一(小中浦)

町制施行功労者

上田辨三(二見) 竹村晋一(中之浜)

福祉環境功労者

小川冊子(湊浦) 清水末通(湊浦) 松下鶴行(仁田之浜) 井櫻ハマヨ(古屋敷) 吉川重運(川永田) 道上武敏(仁田之浜) 上野進(河内) 田中ツマコ(龜浦) 川口命教(川永田) 脇田忠剛(畑) 山神朝光(湊浦) 政木瀧義(湊浦) 二宮都子(大成) 高田和之(須賀) 堀内三和(向) 河野吉一(豊之浦) 井上百人美(田之浦) 吉川與三(湊浦) 伊方ライオンズクラブ・五月会・伊方小学校青少年赤十字

産業功労者

明神紀男(湊浦) 高橋幸雄(田之浦) 重岡憲男(田之浦) 辻成(奥) 黒田市榮(大浜) 道上正(仁田之浜) 飛田求(湊浦) 山口要(大浜) 高崎惣市(大浜) 谷藤孫一(大浜) 畑中金綱(仁田之浜) 政木吉春(湊浦) 伊方建設有限会社佐竹英信(湊浦) 有限会社竹場建設竹

行政振興功労者

吉川時太郎(川永田) 矢野温美(大浜) 渡

生活文化功労者

浦 清水福道(湊浦) 山口幸由(久保) 三好章一(湊浦)

生活文化功労者
榎田ユキオ(久保) 松田シヅコ(川永田) 栗田多津子(川永田) 小池マサ子(川永田) 大通孝行(小中浦) 榎原一尊(河内) 野田ヒサヲ(西) きん保存会(久保)

優良団体

大浜新しい村づくり推進委員会・伊方吟詠会・伊方町生活改善グループ連絡協議会・伊方町青年農業者連絡協議会・伊方町たばこ小売組合・伊方町VYS連絡協議会・保健栄養推進協議会・伊方町盆盆会・伊方町盆盆会・伊方民よう愛好会

特別感謝状

藤堂教義(兵庫県) 古田乙彦(大阪府) 平井滋二(香川県)

敬称略

優等一位に門口さん

今年の自醸酒品評会

今年の自醸酒品評会で最高位を射止めたのは門口俊晴さん(大浜)。

門口さん自身は三回目の受賞。酒づくりにたずさわって五十年以上にもなり、杜氏になってからも四十一年を超える大ベテラン。

今年の品評会の出品は半信半疑。酒のときは例年になくよかったです。

味がげんがむずかしく奥の深いこの仕事。近代化されても、微妙な条件変化を察知するには長年の経験と勘が頼り。世相にも合った「香りと味が調和し、口に含んでふくらみのある酒」づくりに情熱を燃やしている。自醸酒品評会記事は三面に掲載。



住みよい町づくりに49億円

60年度の当初予算

一般会計は2年連続の減額に

三月十二日から二十二日までの日程で開かれた第百二十回定例町議会で、六十年度の当初予算が決められました。これを見ますと、一般会計予算は三十三億二千六百五十九万円、国民健康保険会計や水道事業会計などの特別会計を含めると総額四十九億二千五百三十三万円です。全体では二千八百万円あまりの増になりましたが、一般会計では一億四千万円近い減額予算となり、二年連続の厳しい当初予算編成となりました。

一般会計

総額33億円

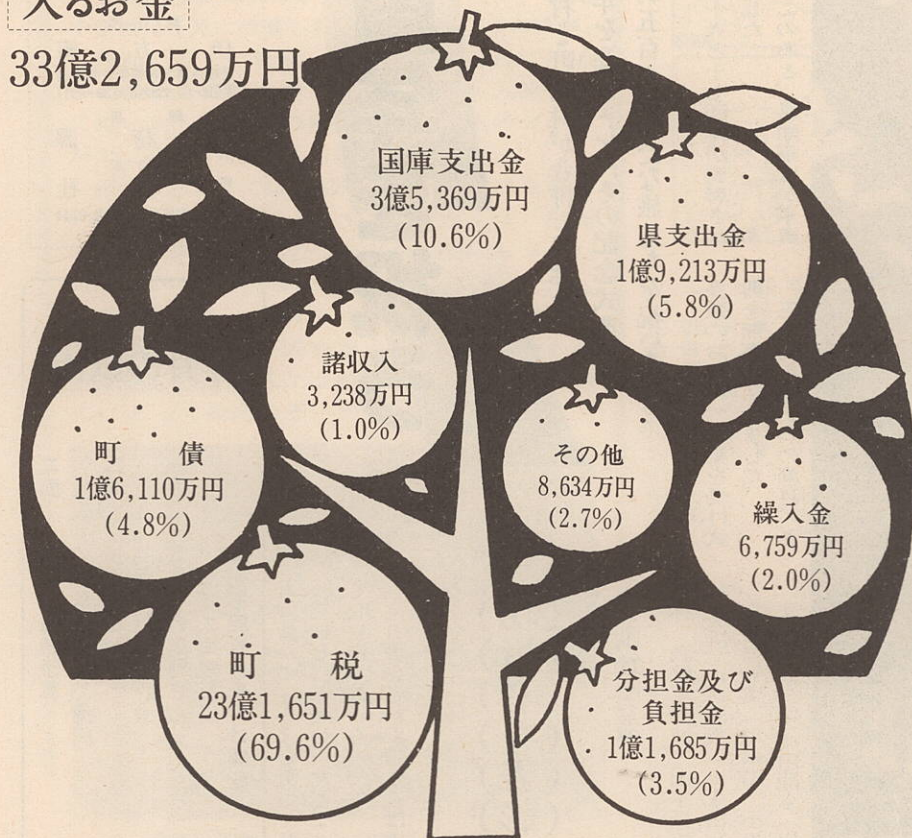
まず、一般会計の入ってくるお金から見てみます。総額は三十三億二千六百五十九万円、昨年より一億四千万円あまり減りました。項目別の内訳は下欄のみかんの木のイラストにしてみました。

本町の特徴は、町税などの自主財源が多いことで、他町村では重要財源となる地方交付税が見込まれていません。これは、不交付団体と呼ばれ、県内では本町のほか一市一町程度です。

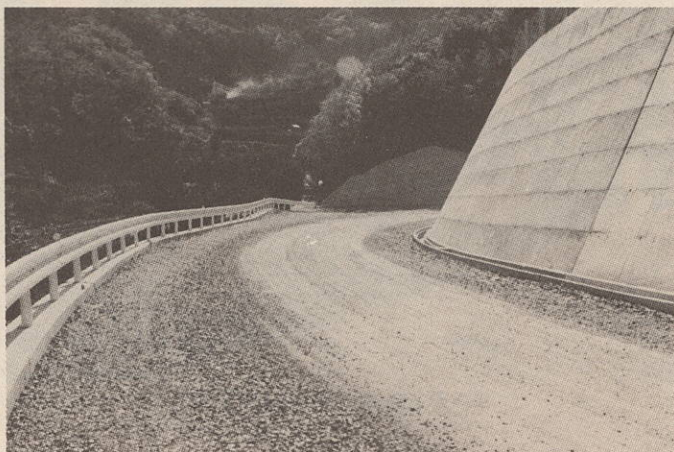
最も大きな財源は町税で二十三億一千六百五十一万円、全体の六九・六パーセントを占めています。しかし、町税の中の大半が伊方発電所一・二号機関係の固定資産税のうちでも償却資産税のため年々減少。今年も前年にくらべて一億九千万円あまりも少なくなりました。今後も一定の割合で減少の見込みです。

入るお金

33億2,659万円



パーセント。これは町の事業に対する国からの補助金などです。次に県支出金の一億九千二百十三万円で五・八パーセント。このほか、町が道路や学校施設の整備などをするために国などから借りるお金(町債)が一億六千九百四十万円、分担金及び負担金の一億一千六百八十五万円。繰入金・諸収入などの順になっています。



加周から平石峠に通じる町道42号線の改良も

水ヶ浦小の校舎改築

一般会計の使うお金は、総務費や土木費などの予算科目ごとにも下欄のみかんのイラストにしてみました。

一番多く使う項目は全体の四分の一あまりを占める総務費です。七億三千四百二十六万円で、主な事業には五十七年度からスタートした地区自治振興基金の一億七千万円などがあります。基金積立額は前年と同額です。

また、広報「伊方町」の一号から今月号までの縮刷版発行費五百万円、庁舎及び町民会館管理委託費一千二百六十四万円などが含まれています。二番目が五億六千二百四十四万円の農林水産業費。南予用水事業受入れに伴う基金積立三千四百万円、豊之浦漁港の修築事業に二億二千四百万円、果樹振興資金三千万円などが主なものです。

三番目が四億七千七百九十六万円の教育費。この中には水ヶ浦小学校校舎改築費二億円、二見小学校校舎改築費三千二百六十万円、奨学資金貸付金一千二百万円などが含まれています。



次いで国などから借りたお金の返済に当たる公債費の四億二千四百四十一万円、福祉関係の民生費四億一千六百六十七万円、町道や港湾整備の土木費三億一千五百一十万円などとなっています。

新酒持ち寄り品評会

門口(大浜)・井上(中浦)さんに栄冠

定した天候と原料米に恵まれ、濃じゅんでやや甘口の酒ができています。すっきりした飲みやすい酒と大鼓判を押していました。

上位入賞の酒名と杜氏さんは次のとおりです。また、品評会に続いて唎酒(きき)コンクールも開かれ五人が入賞しました。

品評会の部

- ▽優等一位 千鳥
- ▽優等二位 梅美人
- ▽優等三位 富士白菊
- ▽優等四位 高橋哲夫(大浜)
- ▽優等五位

- (杜氏のアイウエオ順)
- 西宇和郡杜氏組合(西平寿衛組合長)主催の自醸酒品評会が湊浦の伊方公民館で開かれ、優等最上位に門口俊晴さん(大浜)と井上町宇都宮酒造場の清酒、千鳥が選ばれました。
- この品評会、今年で三十五回目。伊方杜氏を中心とする皆さんが冬期に酒づくりに出かけ、毎年この時期に新酒を持ち寄って、その出来ばえを競っているものです。今年三十二の酒造場から百十六点(前年より十四点減)の出品がありました。
- 審査には、高松国税局鑑定官室の伊藤康室長ら五人が当たり、口にふくみながら良いものから五段階で採点。二回審査して十二銘柄三十六点が優等酒に、さらにこの中から三点が上位に選ばれました。
- 審査長の原田室長は、表彰式の講評の中で今年のお酒の出来ばえについて「安

唎酒の部

- 一位 井上道孝(中浦)
- 二位 菊池芳勝(川永田)
- 三位 上田益男(大浜)
- 四位 菊池郁生(河内)
- 五位 兵頭大市(伊方越)

民話と伝説

原文／伊方町誌 補作／岡村 豊

(21)

源平ゆかりの地

その10

だいた昔のことよ。わたしん子供のころに、古老から聞いた話じゃがなあ。

「おっちゃん、何しよらな」といったら、おっちゃんが「おう、神様の周囲をきれいにしてあげようがよ」といいたつて、「それは、どがいな神様ならな」というたら、「これか、これはのう、栗島様いうての、祭神さんは少彦名神とあるといわれておるがよ。冬にはの、針供養するのが習いになつとるがよ。願いごとがあつたら何でも叶えてもらう有難い神様ぞ、淡島明神ともいいの。」

向の平家大明神

向

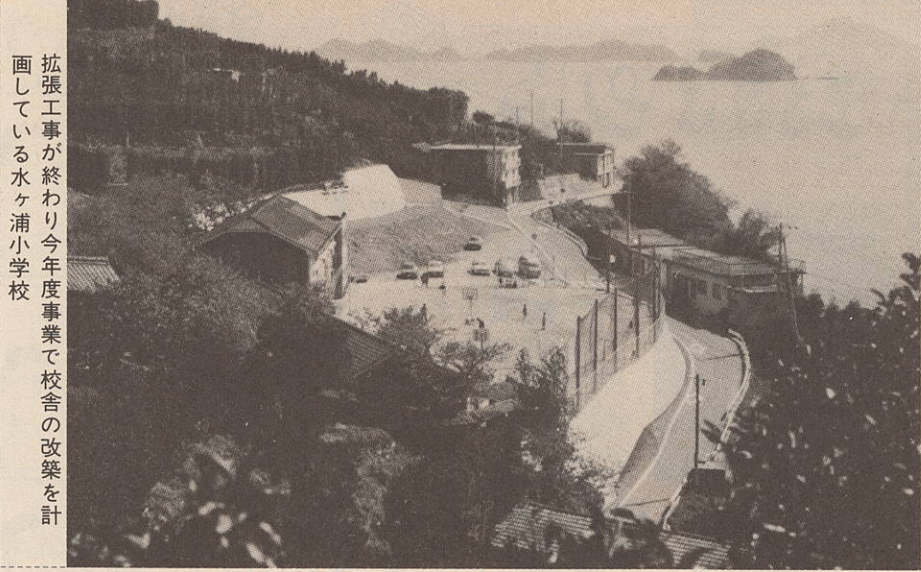
「なるな」「これか、これはのう、この神様が平家様じゃけん立てるがよ」というて、そのおっちゃんが、わしにこがいな話をしてくれましたがよ。

「ある晩のことよ、寝とつたら、夢の中に緋の着物を着た小さな坊がやって来て、わし



家と家に挟まれるようにひっそり残る向の平家大明神

い)に兜(かぶと)を身にまとい、眉間(みけん)額)には刀で受けた傷跡があつてのう。また、その若侍が仁王立になつて、わしは、平家の残党、落武者じゃ」といふような意味のことを大きな声でおらんだがに目がさめて、やつ



拡張工事が終わり今年度事業で校舎の改築を計画している水ヶ浦小学校

特別会計

◎国民健康保険会計

国民健康保険会計は、事業勘定と直営診療施設勘定とに分かれています。

お医者さんにかかったときに医療費の負担などをする事業勘定が五億六千四百七十七万、九町診療所の運営費などの直営診療施設勘定は一億八千四百三十万円になりました。この二つの勘定を合わせますと七億四千四百七十七万円で、前年より九千七百七十万円増えています。

◎老人保健事業会計

今年度予算では一般会計から、事業勘定へは特定疾病患者の医療費補てんに二千六百九十三万円、直営診療施設勘定では建設費用に国からの借り入れ返済などに八千五百二十三万円繰り入れてあります。

◎学校給食会計

歳入歳出それぞれ三億八千八百七十二万円、前年より二千六百八十七万円増えました。

◎住宅新築資金等貸付事業会計

歳入歳出それぞれ四千五百四十四万円、前年より二百九十九万円増えました。

国保会計は5割増額

老人保健・学校給食も伸びる

計 歳入歳出それぞれ二千三百八十万円、前年より七百三十七万円増えました。

12地での工事計画

企業会計

◎水道事業会計

維持管理費などの収益的支出が八千四百十六万円、施設改良費などの資本的支出が三億八百五十五万円で合計三億九千二百二十一万円です。前年よ

り四千九百七十三万円増えています。

今年度は町内全域の送配水幹線布設替工事のうち、伊方地区は大浜・中之浜など七地区、町見地区では加周・田之浦など五地区、合計十二地区九千七百十六メートルの布設替工事を行いました。

この工事が終わりますと、五十八年度から三カ年で約四万六千二百メートルのうち六二パーセントの工事が終わることになります。順次整備を進め、南予用水事業の受入れ体制が整うのは六十二年度末になりそうです。

◎港湾整備事業会計

歳入歳出それぞれ三百九十九万円、前年より六万円減りました。

	予算額	前年対比
一般会計	33億2,659万円	△1億3,738万円
国保会計		
事業会計	5億6,047万円	+ 3,860万円
直診会計	1億8,430万円	+ 5,310万円
老人保健会計	3億8,872万円	+ 2,688万円
学校給食会計	4,504万円	+ 217万円
住宅資金会計	2,380万円	+ 737万円
水道事業会計	3億9,221万円	+ 4,973万円
港湾整備会計	390万円	△ 6万円

離乳食

育児は、赤ちゃんにお乳を飲ませることからスタートしますが、一定の月齢が来れば離乳をしなければなりません。これが多くのお母さんにとって、育児の最初の厄介な関門と感じられるのではないのでしょうか……。

保健センターでは、昨年度から二カ月に一回五、六カ月児を持つお母さんを対象に、離乳食講習会を行っています。毎回四割程度出席率で和気あいあいとした

また、離乳食の味つけによって、ほとんど、その赤ちゃんの味覚が形成されてしまいます。味覚は後天的なものですから、この時期にしっかりと、うす味の習慣をつけましょう。

健康の窓

健康の窓は、皆さんが開けなければなりません。保健センターでは、そのお手伝いをしたいと考えています。

雰囲気で行っており、内容は離乳食についての説明・調理実習・試食会などです。調理をしながらいろいろな話を聞きますが、やはり「めんどうだ」とか「大切なことだとわかってはいるが……」という人が多く、中には、初期のうちから大人と同じ物を食べさせている人もありました。

赤ちゃんには赤ちゃんの適応能力があり、消化・吸収能力にも限りがあります。急がず、あせらず、清潔に気を配りながら進めましょ

国民年金の融資

町では、南予用水受入れに伴う町内全域の水道施設改良工事を行っています。

五十九年度事業では幹線及び配水池を整備しました。この事業費一億四千六百万円のうち、八千六十万円は国民年金の還元融資を受けました。

完成した二見配水池

果樹振興資金受付け

5月末までに申し込みを

果樹振興資金の受付けを行います。希望されますか又は五月末日までに農協を通じて申し込みください。

この制度は、本町が独自で行っている無利子の貸付制度です。五十七年度から実施しているもので、昨年は四十戸の農家から申し込みがあり、総額三千万円にもなりました。今年度も当初予算で三千万円計上しました。資金をこ活用いただき、農業経営の安定と生産力の増強にお役立てください。

- ▽貸付対象
町内に居住する農業者及び農業法人。
- ▽対象面積
おおむね五アール(五畝)以上。
- ▽対象事業(今年度施行及び完了するのが原則)
(一)加温及び半加温施設
(二)無加温施設
(三)屋根かけ施設
(四)単軌道(モノレール)施設
(五)貯蔵施設(新築・増築・改装など。建物内部に断熱材及び換気装置を設けるもの)
- ▽貸付額
標準事業費の三分の二以内で百万円が限度。ただし、すでに限度いっぱい貸付けを受けている人は今年度対象になりません。
- ▽償還期間と利息
貸付けをした翌月から二年間据え置き、五年間で均等償還していただきます。資金は無利子です。
- ▽資材の購入
原則として農協を通じての施設、資材を購入することが

条件です。

▽申し込み手続き
申請書に事業実施計画を添えて五月末日までに農協へ申し込みください。本人及び保証人一人の印鑑が必要です。

▽貸付決定
資金(予算)の範囲内で審査のうえ決定します。

▽詳しくは
貸付け制度について詳しいことは役場産業課または農協へお尋ねください。

出稼ぎ相談員制度

出稼労働者として就労するとき、その条件などをめぐって事業主とのトラブルが見受けられます。出稼先を決めるときは必ず職業安定所を通じて、正しい経路で確かな事業所を選びましょう。

本町では、出稼労働者の相談員として上田益男さん(大浜)が県の委嘱を受け、各種相談に応じています。相談内容は次のとおりです。

一、求人情報の提供
二、就労経路の正常化促進
三、安全就労のための指導

四、そのほか出稼ぎに関する各種相談
なお相談員には、職業安定所から定期的に求人情報が提供されます。

上田益男(大浜)
☎三八一〇一五四

善意箱

川永田地区母親クラブ(稲月律子会長)から、太陽の広場開催収益金九千二百九十五円がまごころ銀行へ。

五十九年度の区長会(谷藤孫一会長)から会費の三万円がまごころ銀行へ。

「友情の図書」贈呈運動を

スポット

全国海の子絵画展で文部大臣賞

広野 貴子さん
(町見中3年)

このところ全国規模の絵画コンクールで優秀な成績を収めている町内の小中学生。こんどは、町見中学校3年生の広野貴子さん(畑)が、全国漁業協同組合連合会主催の第7回全国海の子絵画展で文部大臣表彰を受けた。

全国46,000点の中から選ばれたもので、町見中学校は1月に受賞した得能君に続いての快挙。作品「船上の仕事」は、田之浦漁港に停泊中の漁船と漁具の手入れをしている人物を巧みに描いたもの。その構図のよさと色のつかいかた、細かい描写は出色のよきばえ。

細かいところでは、船板の一枚一枚にも濃薄の配慮が見られる。それでも広野さんは「海面の仕上げが難になったこと、全体的にもう少し時間をかけていれば」と、反省もチョッピリ。応募してから発表までに期間があったので忘れかけていた全国審査。3月28日に行われた東京での表彰式には家族と出席し、広野さんにとって最高の思い出となった。

細かいところでは、船板の一枚一枚にも濃薄の配慮が見られる。それでも広野さんは「海面の仕上げが難になったこと、全体的にもう少し時間をかけていれば」と、反省もチョッピリ。応募してから発表までに期間があったので忘れかけていた全国審査。3月28日に行われた東京での表彰式には家族と出席し、広野さんにとって最高の思い出となった。



文部大臣賞を受けた広野さんの作品

大阪府摂津市正雀本町二丁目一〇一四にお住いの上田熊雄さん(西出身)から一万円。

神奈川県鎌倉市大船一八二〇一八にお住いの篠塚春夫さん(川永田出身)から二万円。

北宇和郡吉田町立間二二六五八吉田酒造合名会社の谷口福美さん(大浜出身)から一万円。

それぞれ広報編集費用にご寄付いただきました。紙上から厚くお礼申し上げます。

【お礼】

昭和60年3月1日現在 人口 8,615人 (男4,156人(+1人) / 女4,459人(-1人))

世帯数2,579戸(-4戸)

えんむすび

昭和60年2月1日
2月28日

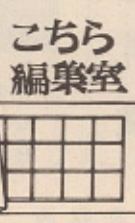
おくりやみ

昭和60年2月1日
2月28日

死亡者 年齢 住所

人事異動

- 〔係長級〕
建設課管理係長(住民課住民係長) 梶田雄二
住民課住民係長(隣保館主任) 松下義和
- 〔一般〕
愛媛県派遣(福祉課) 由中信安
社会福祉協議会派遣(大浜保育所) 中藤みつ代
伊方保育所(豊之浦保育所) 井上恵美
伊方保育所(九町保育所) 高野孝忠
九町診療所(加周保育所) 二宮美代子
学校給食センター(九町診療所) 山内香澄
- 〔新採〕
九町診療所副診療所長 石川和彦
新川会館 島田福重
保健センター 篠沢仁人
中央公民館 林 栄作
住民課 加藤真澄
総務課 上田勝彦
総務課 渡辺智恵美
- 〔退職〕
清水秀和(九町診療所副診療所長)
今岡妙子(保健センター)
畑中サチ子(学校給食センター)
今泉幸香(二見小学校)



こちら編集室

町制施行三十周年記念式典など、あわただしかった三月も終わりました。本年も町づくりスタートしました。国内でもいろいろな出来事がありました。まず三月十日、本州と北海道を結ぶ世界最長の青函トンネル貫通、十四日に東北・上越新幹線の上野開業、十七日には、つくば万博開業など、四国内でも、二十七日に四国初の高速道路が開通しました。また、六月には大鳴門橋が完成する予定です。

すべて本町とは遠いところでの出来事です。が、こうした新時代の波は、都市を越え津々浦々にまで押し寄せて来ています。